新人短信豆知識 N038

2016.3.23

◎山装備の手入れについて

登山して帰ってきて、自分の装備のメンテナンスはきちんと出来ているだろうか。雪山は夏山に比べ多くの装備を身に付けて山行しており、下山してからそのメンテナンスが大変である。でもここで手を抜くと折角の高い装備が大きく劣化する事もあり気をつけたい。各シーズンにより使う装備は異なるが、共通な物もある。今回雪山の装備から考えてみよう。右の写真は吹雪の中頂上を極めた瞬間である。ピッケル、ストック、アイゼンと各オーバー類を身に纏っている。これらの装備を家に帰ってからちゃんとメンテナンスされているだろうか。その辺を考えてみよう。

装備の不備が命取りになる事も

A.雪山装備

①アイゼン、ピッケル

金属である為、メンテを怠るとサビが発生する。ただ薄く、表面がごつごつしない場合で赤さびにまで進行していなければ、特にアイゼンなどは次回使用すると表面は綺麗になる。但し次のシーズンまで持越しの場合がしっかり乾かして表面の錆をサンドペーパーなどで落とし、マシン油等で拭いておく必要が有る。特に気をつけたいのが春山での消雪の為に雪渓などでは塩化カルシウムがまかれている場合がありこれは錆びを呼び易いので良く洗ってしまう必要が有る。

金属類は良く乾燥し錆は落としておく

②ワカン

最近は殆どジュラルミンになっているので、洗って乾かしておけば特に問題はない。木製を使っている場合は良く乾かしてアマニ油等をぬっておく事。

③スパッツ

これは重要な装備で、オーバーシューズを殆ど使わなくなった今、靴の保護や雪に埋まる足の保護に有効である。帰ったら汚れを落として乾燥すれば良いが、忘れてはならないのでチャックと靴底の固定部分のメンテである。少し古くなったりしてチャックの噛み合いがうまくゆかず吹雪の中往生している姿を見かける事が有る。他人に迷惑かけるし、凍傷の恐れもあり要注意。

ワカンは締め具をスパッツはチャックを点

④登山靴

これは最も注意を払って欲しい。昔の仲間が八ケ岳でビバークした際、靴から水が入り凍傷になった。他の人は何でもなかった。新品の場合は良いが古くなった靴を履く場合、十分な防水処理と、ソールの剝がれなどチェックしておく必要が有る。特にスパッツからはみ出す部分の防水処理は防水スプレーを5回以上(乾燥しながら)かけよう。

靴、手袋の防水処理は確実に

⑤オーバ手袋

手は凍傷に成り易い部位である。ゴアの素材以上を求めたい。心配の場合はインナーに完全防水の手袋を着用したい。共に良く乾燥させて、防水スプレーを入念にかけておこう。ラッセル等では濡れる場合が多い。表面に皮革を張った物もあるが凍らないよう比較専用のオイルを塗っておく事。

⑤オーバーヤッケ、オーバーズボン

これも吹雪や極寒の状況から身を守ってくれるアイテムである。値段もピンキリであるが中程度以上の物を買おう。山から帰ったらまず充分に干す事。その後防水スプレーをかけておく。汚れや汗がひどい場合は丸洗いする事。(洗い方は豆知識No1参照)。乾燥が不十分だとカビ臭が残る。また引っかけによる穴あき等は必ず補修しておこう。非常の場合、ダメージにつながる場合がある。これもチャック周りの点検が必要で、不具合は早めに修理しておく事が必要。

上下とも良く乾燥させ収納する事

⑥ウールの下着、目出帽

あたり前の事だが、ウールを普通の洗剤で洗濯機で洗うのはご法度である。生地がフエルト状になり、縮小して着れなくなる。面倒でも手洗いが必要。

⑦羽毛服

雪山では必ず必要な物である。行動中はザックの中に収納しておくがテントや山小屋では必須である。これは乾いて着れてナンボの世界だから帰ったら必ずきちんと乾燥させる必要が有る。これがきちんとできていれば、小さくまた復元力も保てるのである。

ウールの目出帽や下着類

⑧ザック

背中を中心に結構濡れるので良く乾かす必要が有る。行動中はザックカバーをかけると背中以外は濡れずに済む。降雪時など着用した方が良い。これも良く乾かしておく事。防水スプレーをかけておくと着雪防止にもなる。

⑨その他

テント内での装備については触れなかったが、基本的には帰ったら早めに良く乾燥させておく事である。特に羽毛類は湿った環境に置くと劣化す

共に良く乾燥させる事

靴、手袋の防水処理は確実に